

○議長（茅沼隆文）

続いて、8番和田繁雄議員の一般質問をお願いいたします。

○8番（和田繁雄）

おはようございます。8番議員、和田でございます。通告に従いまして、広域連携の調査研究の現状及び今後の方針について問う、これを質問させていただきます。

昨年3月に「足柄上郡5町における広域連携に関する調査研究報告書」が中間とりまとめとして示され1年が経過しております。小田原市・南足柄市「中心市のあり方」に関する任意協議会の発足にあわせて、5町の連携強化の調査研究が開始されたわけですが、2市の協議が周知の結果となり両市への対応が再度クローズアップされるものと思えます。

開成町の未来を考えると広域連携の深化は必須のものであり連携強化のために開成町のリーダーシップを改めて強く求めるものであります。

そこで次の質問をいたします。

1、報告書に次の3点を進めるとあるが現在までの成果および進捗状況は。

①では、平成29年9月を目途に、個別具体のさらなる検討や取り組み。

②広域ビジョンの作成にあたり仮称でありましたが、あしから地域創生連携協議会を設立し、検討。

③「業務別事務研究会」を設置し広域連携の検討。

2でございますが、南足柄市への対応について。

①南足柄市と5町の今後の関係は。

②南足柄市の対応によって今までの取り組み、これはずっといろいろな研究がされておりましたが、その影響を受けるのか。

3、連携協議のような重大な問題は首長間の緊密な意思疎通が必須と考えますが、決定、実行、フォローのプロセスをどう構築していくのか。

4番目として、今後の小田原市との関係は。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、和田議員の御質問にお答えをいたします。

1項目めの報告書に次の3点を進めるとあるが現在までの成果および進捗状況について。1点目、平成29年9月を目途に、個別具体のさらなる検討や取り組みについてをお答えいたします。

足柄上郡5町では、小田原市・南足柄市「中心市のあり方」に関する任意協議会の発足にあわせ、県西地域の広域連携など圏域のあり方について議論を深めていくため、5町の副町長を中心に協議会を設置し、平成29年3月に「足柄上郡5町における広域連携に関する調査研究報告書（中間とりまとめ）」の取りまとめを行いました。

報告書に提案事項として盛り込んだ「広域ビジョンの作成」及び「業務別事務研究会の設置」を具体化するため、平成29年5月23日に足柄上郡5町の副町長を構成員とする「あしがら地域創生連携推進会議」を設立し、本年1月までに会議を5回開催しております。

その中で、「広域ビジョンの作成」、「新たな広域連携事業の構築」、「2市協議への対応策の検討」の3項目を業務内容として設定し、現在も作業を進めております。

次に、二つ目の広域ビジョンの策定にあたり、足柄地域創生連携推進協議会を設立し、検討についてをお答えいたします。

協議会においては、あしがら地域の将来像を足柄上郡5町で共有するため、「あしがら」としての指針・ポリシーを整理し、「あしがら地域広域ビジョン」の策定を重要項目として掲げております。

広域ビジョンについては、目標年次をおよそ20年後の2040年に設定し、5町間における都市機能連携により、超少子高齢化社会に対応するための連携ネットワークづくりを目的に、足柄上郡5町が20年後に生き残っていくための将来像について、今年度末を目途にまとめてまいります。

次に三つ目の「業務別事務研究会」を設置し広域連携の検討についてをお答えいたします。

広域的な課題の解決に向けた取組や地域活性化のために連携して取り組む事業について、政策的な発展及び事務の効率化のための広域連携の検討を進めるため、11分野のワーキンググループを設置し、担当分野の課長級職員により、現在も協議を進めております。今年度におけるワーキンググループの成果として、子育て支援分野での「病児保育事業」を5町共同による新規事業としてまとめ上げ、新年度当初予算案において提案をしております。ワーキンググループの活動については、来年度以降も活動を継続して行うこととし、各分野において広域連携事業の具体化について調査・研究を深めることから、連携による人的・財政的なメリットを見出し、さらなるあしがらエリアの持続的発展を目指してまいります。

今後のワーキンググループにおける取り組みにつきましては、年度ごとに広域連携に関する課題等の調査・研究テーマを設定し、該当する分野のワーキンググループにおいて、テーマに沿って進めていくことを予定しております。

2項目めの南足柄市への対応についての一つ目、南足柄市と5町の今後の関係についてお答えいたします。

2市協議が実施されていた期間は、足柄上郡5町におけるさらなる連携強化を目途に、2市協議の結果による連携事業への様々な影響をシミュレーションしてきました。2市の合併が白紙となった現在では、改めて南足柄市を含めた足柄上地区1市5町の枠組みによる従前からの分野ごとの取り組みについて、他町とも確認したうえで、対応を考えていく必要があると考えております。

一方、人口減少や少子高齢化の進行とともに、行政課題の複雑化、高度化が進むな

ど、基礎自治体が直面する様々な課題解決に向け、市町の枠組みを越えた広域連携強化の必要性は一層重要になってきております。これまで培ってきた連携体制をさらに強化し、より強固な圏域自治体の協力基盤を整備していくことで、足柄上地区1市5町のさらなる均衡ある発展と住民福祉の向上を図っていく必要があると考えております。

次に、2項目めの南足柄市の対応によって今までの取り組みは影響を受けるのかについてお答えをいたします。

「あしがら地域創生連携推進会議」において、2市が合併した場合の広域行政への影響について検証し、対応策について検討を進めてきました。2市協議における関係事務事業の調整事項として、あしがら上地区ごみ処理広域化、足柄上衛生組合等の5つの事務事業を掲げ、業務別ワーキンググループにおいて、2市協議の協議内容を踏まえ、5町への影響の検証及び5町の選択肢においてパターンごとにメリット・デメリットを整理したところであります。

2市協議が白紙となった際の対応においても、「あしがら地域創生連携推進会議」において副町長間で情報を共有し、今後の対応策について迅速かつ円滑に方向性を確認したことで、5町に大きな影響は生じておりません。2市協議が実施された概ね2年間において、協議等が休止していた事業などについては、改めて事業内容等を整理し、円滑に業務が再開されるよう積極的に促してまいります。

三つ目の連携協議のような重大な問題は首長間の緊密な意思疎通が必須と考えるが決定、実行、フォローのプロセスをどう構築していくかについてお答えをいたします。

県西地域2市8町では、圏域の一体的な広域連携を推進するため、昭和44年から協議会を組織し、広域的な行政課題の解決についての調査・研究を進めて来ており、現在も「神奈川県西部地域広域行政協議会」において同様の対応を進めていくとともに、このほかにも国や県等を加えた連携や、足柄上地区1市5町や足柄上郡5町等の様々な枠組みにおいて、多種多様な分野での広域行政を進め、これまで多くの成果をあげてきました。これまでも広域的な課題への取り組みに際しては、様々な協議会等の機会において首長間での意思疎通を図っておりますが、行政の効率化においては対等性・平等性が基本であり、開成町としての立場を意識しつつ、基礎的な条件や能力を備えた広域連携を推進してまいります。

これまでの2市8町や1市5町等の枠組みによる取り組みについては、一部事務組合等の個別の構成町としての意思決定を経たうえで、全体としての協調を図っていきたいと考えております。

四つ目の小田原市との関係についてお答えをいたします。

人口減少や少子高齢化が進行する県西地域におきまして、広域連携の重要性は益々高まっており、県西地域における広域連携の中心的な役割を担うのは、これまでと同様に小田原市であると考えております。県西地域の中心的な役割を担う小田原市と周辺市町において、これまで培ってきた連携体制をさらに強化していくことが県西地域

全体の活性化に繋がることは明白であり、様々な課題解消に繋がるものと考えており、今後も公正な信頼関係に基づき、より継続的で、かつ安定的な広域連携体制の構築に努めてまいります。

町長として開成町の将来的な発展を見据えながら、圏域のさらなる活性化と課題解決に向け、県西地域を担う一首長として、広域における役割をこれまで以上に果たしてまいります。

以上であります。よろしくお願いたします。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

昨年、平成29年3月ですが、中間取りまとめとして出されました、足柄上郡5町における広域連携に関する調査・研究報告書。これをずっと見ていきますと、もともとの調査・研究の目的、これが足柄上郡5町では、これまでの広域行政や広域連携への取り組みへの2市への動向の影響を把握し、対応策を取りまとめるとともに足柄上郡5町の個性と魅力を活かしつつ、足柄エリアの持続的発展を目指し、中長期的な観点から広域連携のあり方を模索し、今後想定される連携分野の抽出、連携にあたっての課題等を整理することとしましたと。こういうふうになっております。

1番目の小田原市、南足柄市、中心市のあり方、これは周知上に全く白紙になっていることと思いますが、先程の町長の答弁の中で、最初のところ、三つの活動の項目、2市協議への対応策の検討ということがございましたが、これは何か2市協議の中から5町で協議をするような内容、こういったものが残ったのかどうか。これをまず確認したいと思うのですが、特になければ今後、南足柄市との関係をどういうふうに気づいていくんだと、そういう観点での調査・検討、こういう理解でよろしいでしょうか。そこをまず、お答えいただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えさせていただきたいと思います。

あしがら地域創生連携推進協議会におきましては、2市協議への対応策、これを一つ主な取り組みとしておりましてけれども、今、議員がおっしゃったとおり、2市の協議会が白紙になったというようなことでございますので、直接的な2市協議への影響について、検討対象からは外れたという認識は持っております。

ただ、2市協議を契機として、し尿処理などの1市5町の枠組みで進めてきたもの、また、ごみ処理のように2市5町の枠組みで、広域化を目指しているものこれらの方向性について、今後どういう形が最善策であるのかというのは、一定の方向付けは今後、南足柄市の関係というような観点も含めて考えていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○ 8 番（和田繁雄）

よく分かりました。

そうすると大きなこれからのテーマというのが広域のビジョンの策定、それと業務別事務研究会、これがどういう形で発展、実現をしていくか。こういう理解で質問を進めさせていただきたいと思います。

広域ビジョンの策定で、これはまず、非常に不思議なのは目標年次をおよそ20年後と、こういうふうに設定しておりますけど、これだけの変化の激しいときに20年後、これはどういう想定で20年後にしたのか、いろいろ議論があったと思うのですが、この議論がどういうものがあったのか、そこをまず、教えていただきたいと思います。

○ 議長（茅沼隆文）

副町長。

○ 副町長（小澤 均）

ビジョンを具体的な計画ベースものというふうな想定ではなくて、当初から圏域の中での将来構想的な意味合いの中で考えたというのがまず1点あります。

構想レベルの話ですと、現在はそれぞれの構成町5町の中では、総合計画に従って、計画的にまちづくりを進めているという現状がありますので、それよりもそれぞれ総合計画はもっていても長くても10年レベルの期間を設定しているというものがほとんどだと思いますけれども、当町の場合にはこれから後期の6カ年の計画をつくっていくというような流れになりますけれども、そういう年次を考えたときには、それぞれの町の中では、総合計画に従った、個別の町をどういうふうにイメージしていくのかということは計画として具体的につくっていくと。

さらに、このビジョンの部分では構想ベースの扱いと考えたときには、たまたま社会保障人口問題研究所のそういう試算を考えると、2040年という時点の中で、それぞれの人口減少だとかというデータが示されているというふうな部分も含めて、切りの良いところ2040年、今からおよそ20年後の地域の姿をイメージして、構想をつくっていきこうよという議論の結果として、そういう年次の設定をしたということでございます。

○ 議長（茅沼隆文）

和田議員。

○ 8 番（和田繁雄）

今、副町長から答弁をいただいた内容ですが、これは5町でそれぞれの基本計画、これを用いたということで、例えばこの地域全体を考えたときに5町でそれぞれ、いろんな思惑、考え方があると思うのですが、この辺の調整をどうしながら5町として持続発展を目指していくのか、これがどうしても理解ができないのですよ。当然のことながら温度差が出てまいりますよね。この辺の調整をどうされていくのか、その辺をお伺いしたいと思います。

○ 議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

和田議員が言われるのは、いわゆる20年後の姿として、5町が5町のままで残っているのかと、根幹的な御質問かと受け取っているのですけれども、現状ではそれぞれ5町の首長さんは個別にお話をしたときには、今から10数年前に2市8町の枠組みの中で小田原市がリードして、この県西地域を一つの圏域として市町村合併、平成の合併という風向きの中で動きをしたといったことがありましたけれども、その時点では成立をしなかったという経緯の中ではあります。以来、市町村合併を選択せずに広域連携を推進していくといった方向性の舵切りがされたと言ったことの中で、ここ2、3年の状況とすれば小田原市が南足柄市と2市で合併をするというか、いわゆる中心に関する協議を始めると、議論がほとんど中身的には合併の話になっていたといったことが現実問題としてはあったということは受け止めるべきだと思います。

2市のそういった動きが出てきたということがありますけれども、じゃあ5町として合併を考えるのかどうなのか。それぞれ、首長の考えを確認した中では将来的には合併も検討の一つとしてはあるのかなど。ただ、それは今ではないよという意見が5町の首長さんはほとんど持っていられます。

そうしたら、合併を選択せずに行政政策改革で一番手っ取り早いのは、市町村合併であるということは一般的に言われている部分がありますので、それは今ではないよということであるのであれば、今までの取り組みをしてきたような広域連携をさらに強化していくという視点の中でこのビジョンを考えていく、取り組みをしていくといったことがスタートしてありました。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

大変微妙な回答になろうかと思いますが、ちょっとその観点でもう少し進めてみたいと思うのですが、これは例えば、先程のお話ですと20年後の姿、これを一つの自治体として考えていくということがベースにあるのではないかと思うのです。

そうすると、ここに今年度末を目途にまとめていくというのがあります。今年度というのは、今年の3月、今月でよろしいということですね。そうすると、相当これはビジョン、こういう20年後の姿でやるとまとまっていると思うのですが、それはどういうふうなポイント、まとめ方になっているのか、そこをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

このスケジュール間の中で、当初はもう少し2市の合併に関する、最終的な判断ですとか、手続きですとか、そういったものが今年の5月か6月ぐらいに想定をしてい

たという正直なところでした。

ところが、昨年の年末にそういった南足柄市の判断が出たということの中で、今の合併に関する流れが途絶えてしまったといった部分が5町の連携強化を図っていく作業とすれば、もう少し余裕がある中で、扱えるというふうには想定をしていたところもありましたけれども、そういった変化がありましたので、相当タイトにならざるを得ないと。

年度末と言っても今月いっぱいというふうな部分もありますので、会議の中ではそれぞれのビジョン及び業務の効率化の部分については検討を進めてきているような状況もありますので、これから時間のない中でも最終的なまとめを急いでいきたいと思っています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

すみません。ビジョンのそれぞれ5町への反映の仕方という部分につきましては、今後ビジョンにつきましては、構想ベースで3月末までに今、副町長から申しあげたような形で策定をしていくというようなことは進めていくということになりますけれども、そのできあがったものについては、各町の総合計画がございますので、今後5町それぞれの総合計画の策定時、または改定時等において具体化する施策ですとか、そういうものを各町の総合計画に反映することでビジョンを実現するという方向性に5町が揃って向かっていくというようなことを確認しておりますので、その取り扱いについてはそういう形で進めていくということは御承知をいただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。5町中でどういう形でこれが反映されていくのか、この舵取りが難しいと思いますが、副町長の御苦勞、御担当者の御苦勞、この辺も非常に敬意を表するところではありますが、これは5町の中でそれを進めるときにこれはずっとよくよく考えてみると、国の枠組みでいくと広域連携推進協定、これに近い、これを狙っているのかなという感じがするので、まずはその認識のところと、もし、そうであるならば、これは一番最後のところで質問をさせていただこうかと思っていたのですが、小田原市との関係。中核都市はどう考えても小田原市、ここでしかこの地域ではありえないので、ここの関係が相当これから重点的にどういう関係をつくるのだということになってくるかなと思います。

そうすると、5町として小田原市と今、どんな話をしているのか。それとも課題として、小田原市と関係を深めていくんだよ、言葉だけではなくて、具体的にどういう動きになっていくのか、この辺が何かあれば教えていただきたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

今、申されたのは連携中枢都市圏構想というようなことでよろしいでしょうか。そういう形で答弁をさせていただきますけれども、連携中枢都市圏構想に関しましては、西協議が進んで行く中で、西協議側で当然、中心市のあり方を検討するというようなところが大きい趣旨でございましたので、連携中枢都市圏を2市8町において形成、2市8町も含めてというようなことになりますから、中心等の役割を担っていくというような趣旨の中で進められてきたと考えておりますので、そこは西協議がある間は連携中枢都市圏構想、これに従って枠組みを強化していくというようなことが進められたんだろうとっておりますけれども、小田原市との関係というようなことでございますけれども、西協議が先程もお話ございましたとおり、白紙に戻ったというようなことで、これまで2市8町の広域の中で広域行政協議会等を進めてきたというようなことの経過がございますので、これを基本として、今後もこれまでと同様の県西地域の2市8町の枠組みの中で広域行政を進めていくのだらうと思っておりますけれども、小田原市との関係ということで、後程また、御質問の中でも細かい御質問があるのだらうと思っておりますけれども、これから開成町として、また5町として、その2市8町としてということで、様々なパターンでの広域連携というものは、その場面、場面、分野ごとについても考えていかななくてはならないだらうと思っております。

ただ、今の時点で具体的に開成町として小田原市どういうふうな関係をつくっていくというものの具体的なものは持っておりませんが、これからいろいろ流れていく中、進捗状況ですとか、状況を見極めた中でその辺は必要に応じて対応をしていきたいと思っておりますし、それはまた広域行政全般にわたって、開成町の位置づけ、または役割をきちんと担っていくということがベースになっていくのだと思っておりますので、これまでの取り組みを引き続きやっていくということが大前提になりますけれども、新しい関係等についても、今後状況に応じて考えてきたいと考えています。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

当初、小田原市が考えられていた、いわゆるこの県西地域の中での大きな器の中で、中心市として存在するんだということはある意味正論としてとらえるべきところだと思います。それが当初はいわゆる中心市になりうる規模として存在をするために南足柄市との合併を考えられたということがきっかけとしてはあったのかなと。その中心市を取り巻く周辺の市町村に対して、いわゆる連携協約等を結んだ中で、中心市との契約関係の中で様々な事業を展開していくという、シナリオを考えられていたということは当初からは想定はされていましたが、先般の新聞報道等を見ると小田原市は中核市になるということはここでは断念されたといったことも市長は言われ

ていたということが報道されていまして、今、課長が申したとおり、個別の事業ごとにどういう枠組みの中で様々な広域連携事業を小田原市を中心に展開をしていくのかというのは、今後、様々な形で投げかけられてくると。それを構成町の中でどういうふうを受け止めて判断をしていくのかということが出てこようかと思えます。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございました。今後の活動、そこに非常に期待をしたいと思っております。

この広域ビジョンの中でいろいろ20年後はこういう姿だよというのを描く、これは非常に貴重なことだと思うのですが、やはりこの地域の一番の課題、これは税収減、こういったものをどういうふうを増やしていくんだと。お金がなければ何をしようにもできないという、こういう状況がありますので、この地域の中で例えば産業とかこういったもの、企業誘致というのが言葉として潜んでくるんですが、どういう形でお金が回るような仕組みをつくるんだと、その辺は何か議論というのはあったのでしょうか。それとも、例としてこういう社会をつくるんだよというところに終始したのか。そこをちょっとお伺いしたと思うのですが。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

いわゆるビジョンを策定していく前提、そういったものをお聞きになっているのかと思えますけれども、会議の中では足柄地域の将来像、2040年の時点でどういう地域にしていくのだということをまず、キャッチーなそういうことをフレーズとして掲げて、それをどういうふうな形で実現をしていくのかということの論建の中で、ビジョンをまとめていこうとこういったことを考えました。

前提となる五つの柱としては、まずは、1点は今、お話をされたようなこれから2040年の時点でおよそ6万5,000人口があるものがその時点では、1万3,000人あまり減って、5万2,000人ぐらいになってしまうという推計があります。そのことは、とても大きな課題としてあるわけで、せめて今の人口を維持していくためにどういうふうな具体的な取り組みをしていかなければいけないのか、そういうところの目線の中で五つの柱として前提を考えました。

一つには人口の維持の関係については地域内においては愛着や誇り、プライドを醸成しながら地域以外に対しては地域の魅力を戦略的に発信して、この地域のファンをつくっていこうと、そういうふうなことが一つあります。そのことによって、定住人口ですとか、交流人口を増えやしていくのだと。

二つ目は、今、お話があった産業立地の関係なんですけれども、既存にある産業の振興、それから、創業支援ですとか企業誘致によって地域経済を成長させること。

三つ目は、この地域の2040年の段階では、高齢化が超高齢化になるということ

からすれば、5人に2人が65歳以上になるという推定が出ていますので、子どもから高齢者まで、誰もが健康で生き生きと暮らせる地域をつくっていくと。福祉、医療、介護、そういった観点だと思えますけれども。

4点目は、自然災害は切迫性も取られている部分もありますので、そういったことに対する対応ができる体制づくり、そういうものを5町の中でしっかりつくっていくと。安全で安心して暮らせる地域の実現を目指していくと。

最後の5番目としては、いわゆる都市部と比べてハード整備、いわゆる交通網の整備、そういったものは充足していないところもありますので、そういったものを改めて幹線道路網のアクセス性を高める、そういったものを一体となって整備をしていくと。

また、高齢化が進むことによって高齢者の足の確保等も重要になってくることから、公共交通の確保に努めると。

その5本柱を、このビジョンをつくっていくときのある程度の基本的な考え方として持っておこうということで共通認識が図られています。その基本的な考え方をまず掲げてそれにぶら下がる施策、事業を細かくつくって、それを受けて各町の総合計画ベースの中で具体的に事業化を図っていくと。これは多少、年数がかかろうかと思えますけれども、そういったことを行っていかない限りは、今の個別のそれぞれの町の町づくりやってきた結果として現状があるということは受け止めなければいけないわけで、それを大きな転換を図って、5町が一緒に一丸になって、同じ目線でこの地域づくりを進めていくんだということの共通理解と意識の共有が必要なのかなと思っています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。

これは具体的な計画、それぞれの町の基本計画とかそういったところに反映をされると。こういったお答えをいただいたのですが、これは5町として、こういう方向にいくんだよというものは何かの形で、これは公表というのはいされるのでしょうか。5町の共通目標はこういうところですよということを地域の方々全員に知らしめるということなんですか。それは何か考えでしょうか。

○行政推進部長（秋谷 勉）

もちろん、各町ともこういう取り組みをしていくということは議会をはじめ、公表をしているところですから、今後、段取りといたしましては、ビジョンの部分については今年度末に策定でございます。

今、取りまとめは開成町で行っておりますけれども、その後、5町の首長さんにまずは見ていただいて、確認を行わなければいけません。それで、5町の中で、それでまとまった段階では、その後こういうものができあがりましたということでの公表は

あろうかと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。ぜひ、これは地域の発展、これを目指していただきたいと思えます。

これは、私も今後ともこの動向については注視していきたいと思っておりますので、今後の報告、公表されるこういったものをきちんと見ていきたいと思っております。

それでは、次の質問に移らせていただきたいと思えますが、業務別事務研究会、これを設置し、11分野のワーキンググループということを設定されたところでは御答弁をいただいているのですが、昨年3月に中間取りまとめ、この報告書の中に、今、現状のいろいろ連携をしている分野、この辺の整理をされておるのですが、この中でこれをずっと中身を見ますと11以上の項目があるんだなと、私は理解しているのですが、この11項目に絞ったいろいろ検討、議論をされたと思うのですが、どういう議論があって11のワーキンググループになったのか、そこを教えてくださいたいと思えます。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

協議会の中の主な取り組み項目の一つに新たな広域連携事業の構築というものを掲げているというようなことで、先程申しあげましたけれども、この新たな広域連携構築の議論において、町の業務を網羅的に検討する必要があるんだろうという認識から、各町の組織、機構などの体系等を踏まえまして、11分野のワーキングを構成したというようなことで、こちらにつきましては、ワーキングの所掌事務の中で企画担当課長で組織する幹事会がございまして、そちらを経て副町長の全員で組織をする協議会を経て決定をしたという流れの中で決定をしております。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。

今までも協働処理とか共同事務をいろいろ連携されておるのですが、今回の11のワーキンググループの中で今までの連携の仕方、これのきちんとした見直しというのですが、これがあつた上で今後のワーキンググループの方向をこんなふう決めていこうと、幅と広さの面、この辺でいろいろ違いが出てくると思うのですが、今までこの11ワーキンググループ、これが目標としているものは何か違いあるのかどうか。そこを教えてくださいたいと思えます。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

これまでとの違いというようなことでございますけれども、新たな広域連携事業の構築というようなことの目的に沿って、ここで立ち上げたというようなことがございますけれども、これまでの広域連携についてもある課題があつて、ある程度熟度が増してきたところで、ある程度担当で課題について話を進めていくという形がオーソドックスな形なのかなと思っておりますけど、今回のワーキングに関しましては、ワーキングごとにテーマ設定から初めてございますので、検討のテーマを考える段階からスタートしたということで、ある意味5町の課題の共通認識を持つというようなことの観点においても効果があつたのかなと思っておりますし、今後の課題というようなものもここで全て方向性が出るということではございませんので、これからこういうものを継続する中でも、様々な課題解消を進めていくというようなことにつながっていくということで、これまでもそういった意味ではこれまでの既存の枠組みというようなものから一つ、展開が図られた取り組みであつたと認識してございます。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

今の市町村合併そのものの動きというのは、平成の合併が終わってからしばらく経って事務事業の効率化というところの中では、総務省ですとか国にも様々な分野の中で一緒にできることは一緒にやっていくという大きな流れがあります。

今回、たまたま2市のそういう動きの中で、5町が一緒にやっていることは一緒にやっっていこうよと、これは首長の何かの会議の中でもできるところからやっっていくべきだと。5町横並びで同時スタートでなくても、2町、3町でもできるところからやっっていくと、そういう御意見をいただいたところもありましたので、そういうスタンスの中で、とりあえずそれぞれの11ワーキングの中で例えば、企画のワーキングでしたら交通ネットワークの広域化、そういったものも一つの検討項目として掲げたり、例えばほかには、総務財政ですと共同調達、これは様々な事務の消耗品ですとか、コピーですとか、そういったものを共同で発注することによってのコストダウンを生むのだということもありますし、あとは防災関係何かについても広域的な大規模災害時の連携ですとか、あとは具体的に今回の予算の中でも形として挙げさせていただいている部分については、例えば子育て関係の広域連携による幼児保育事業、そういったものは平成30年度の一斉の取り組みとして、5町が同時スタートしていきましょよという合意が図られたといったものもあります。

今、課長が説明したとおり、まだそれぞれのワーキングの中で連携手法等を検討しながら今後の一緒にやっっていくためにはどういう方法があるのかということ先進事例等を見ながら研究したいということもしながら、そこに目線を置いて進んでいく

んだということは全11のワーキングの中でも御理解をいただいていると言ったことがあります。

いずれにしても、できるだけ早くできるところから一緒にやっていくと。これは、横断的なそういう連携というか、横断的な補完ですね。5町が横断的な横並びの中で、補完をしていこうと、協力体制の中でやっていこうと。あとはそこにできれば県が垂直的な補完として、県もかんで例えば、もう進んでいる部分については土木事務所、県の協力の中で一緒にやる共同点検ですとか、そういったものを神奈川県がリードして音頭をとってくれているようなところもありますので、今後は横断的な補完と垂直的な補完をかませながら、できるだけ県に協力支援を求めていけるものがあれば、そういうものをしていきたいと考えています。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。

先程の町長答弁の中に、年度ごとに目標、目的を見直すというのがあるんですが、これは前回の先程の中間取りまとめ、これは昨年の3月に我々に示されたのですが、1年程はうわさで聞くとか、いろんなまた聞きで聞くとかこういうことでしか情報が入らなかったのですが、こういう例えば5町で合意をしたもの。例えば、年度ごとで見直すときにこういうものはこういう成果を得たとか、こういう公表というのですかね、これは今後、どういう形になるんでしょうか。5町で合意をする、このタイミングで公表をしているのか。もう少しきめ細かく我々にもどんな進捗をしているのか、教えてほしいなと思っているのですか。その辺を何かお考えがあれば教えていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

今、御指摘のとおり報告のきめか細かな報告というようなものについては必要かと考えております。

ただ、段階というか進行状況によってというようなことがありますので、今回につきましても、様々なこれまでの間に、中間報告からの間に一般質問等でお答えした部分等もございますし、また、ここで3月末を目途に広域ビジョンを策定しているというような状況もございますので、またある程度、御報告できる形が整ったところで今、おっしゃっていただいたように、きめ細かい報告なりというものを対応していきたいと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。

それでは、次の質問に移りたいのですが、南足柄市との関係なんですが、これは先程、全体として南足柄市とどういうふうな関係をこれから築くんだとお伺いしたんですが、特に気になっているのはごみ処理の問題ですね。これは南足柄市とどういう形で今後、進めていくのか。それは何か話し合いをしたものであれば、そこを教えてくださいたいと思うのですが。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

1市5町の中で足柄上地区の資源循環型処理施設調整会議というのがありましたけれども、その再開に向けて実は先月末に正式に南足柄市の市長から上郡5町の首長に対して、再開の要請が実はありました。2市協議という理由で一旦小休止をしておりましたけれども、将来的な視点で考えれば財源や地域環境の負荷の点からやっぱり、広域設置のスケールメリットを生かすという判断を5町がきちんと認識をしまして、再開を了承して、これから進めていきたいと。その中身については、4月から再開をするのですが、再開の仕方については幹事長レベルの中で、どういう手順でどういうふうに進めていくかというのは、これでまだ協議をする部分がありますけれども、その中にまず、開成町としては現在、山北町と西部清掃組合ということで、2町で組合を持っておりますので、開成町単独で南足柄市とという話ではなくて、2市の中でちゃんと西部の組合の中で山北町ときちんと調整をしながらこれからまた、再開に向けてもいろいろな様々な意見についても言っていく必要があるのかなど。それはすごく大事にしながらこの再開に向けてまた進めていくというのがすごく大事になってくると思いますので、そのような方向で開成町としては考えております。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。

それでは、小田原市との連携強化、これは県西地域全体の活性化につながるというのは当然分かって、先程の大枠の中で小田原市と関係は強化していくということで、これはまた別途、これを始めるとまた相当時間がかかると思いますので、いろいろ質問をさせていただきたいと思っております。

最後の私の質問なんですが、先程の町長答弁で、広域における役割これをきちんとした上でリーダーシップを発揮していきたいというお言葉がありました。広域における役割、これはどう捉えてどういう形で連携強化のためのリーダーシップを図っていくのか。何かお考えがあれば教えてくださいたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

2市協議がなくなって、今までどおり小田原市を中心に様々なごみの関係、し尿処理の関係、斎場の関係、様々ありますけれども、やはり小田原市が中心になってやっていただけるように、これは我々も考えておりますけれども、その中でリーダーシップという話ですけれども、やはり基本は開成町は1市5町上地区が基本であると考えています。

この中でまとまって、どうやってこれから小田原市と連携協定を結んでいくか。開成町と小田原市が直接やっていくということではなくて、1市5町がきちんとまとまるということがすごく大事だと思います。ごみの関係もそうです、斎場の関係もそうです、し尿処理の関係もそうです。様々な分野でこれから広域の連携強化が必要になってきますし、1市5町だけでは良い問題ではなくて、2市8町の中でこれから広域連携をさらに進めていくことが担っていくと思いますので、そういった中で1市5町がどうやってまとまっていくかという中で開成町の役割としては1市5町をきちんと調整、まとめていくのが大事な役割なのかなと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。

なかなかこれは自分たちで決められる問題だけではないので、大変難しいと思うのですが、今後もこれは非常にこの地域全体、この繁栄、これはみんな知恵を集めるということが一番大事な事かなと思いますので、今後、ますますこれが進化して、やっぱり将来的な発展につながるということを我々も一緒に考えていきたいと思しますので、ぜひ頑張ってくださいというのもあるんですが、精力的に活動を進めていただきたいということで私の質問を終わりたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

和田議員の一般質問を終わりにいたします。